

ベトナム人日本語学習者の
漢字習得プロセスの研究

小 川 早百合

関 かおる

A Study on the Kanji Acquisition Process in Vietnamese Learners of Japanese —

This study investigated the characteristics and acquisition of learning kanji—a logographic system of Japanese writing that represents words of ideas, and which can have different meanings and pronunciations depending on their context—by native speakers of Vietnamese who are learning Japanese. In addition, the purpose of this study was to learn how Vietnamese native speakers who do not use kanji everyday can see the process of acquiring kanji as being "fun" and continue learning it. The research method was based on an analysis and consideration of questionnaires, together with interviews conducted on kanji learning with students majoring in Japanese at a university in Vietnam.

The main part of the study was asking learners to write their "favorite kanji" and their "easiest-to-remember kanji" then interviewing them as to their reasons. By classifying the reasons into 10 types and analyzing them, the following has become clear. The reason learners listed a particular kanji as a "favorite" was that they understood it and resonated with the kanji's meaning and values, the reason they listed it as "easiest-to-remember" was because of the shape of kanji and the frequency they encountered it.

From there, learners can continue to enjoy learning and remembering kanji finding pleasure in kanji's meaning and to resonate with its interpretation and shape, and by looking for a particular kanji and writing it with higher frequency. This helps with the recognition that the method of kanji acquisition is different for Vietnamese native speakers than for Japanese native speakers, and proposing the "fun" aspect of kanji learning can help the learner's kanji memory.

1. はじめに

本研究は、日本語学習者の漢字習得に関わる問題に焦点を当てるものである。日本語学習の中でも漢字の習得は、特に非漢字系学習者にとっては難しく感じられ、困難が伴うと指摘されている¹。そうした「難しい」と感じる漢字学習を「楽しい」ものに転じさせるための研究を筆者たちの研究グループは2016年から実施してきた²。本論文では、中でも、漢字系と非漢字系の中間的な存在であるベトナム語を母語とする学習者の漢字習得を考察し、その特徴を明らかにすると共に、他の母語話者における漢字習得との比較を行うこととで、漢字学習を「楽しい」ものとして意欲的に継続させる方策を明らかにすることを目的とする。

本稿では、日本語学習者を特に漢字習得の観点から「漢字系」、「非漢字系」、「中間的」に分けて論じることとする。「漢字系」は日常生活で漢字を使用している環境、「非漢字系」は日常生活で漢字に接することがない環境を指し、「中間的」に分類するのは、日常生活では漢字を使用しないが、本来は漢字であった語彙が「音」として、その言語（母語）に残っているものを指している。例えば、ベトナム語における漢語・漢字語を伝承漢字音に音訳した語彙である漢越語や漢語・漢字語の音訳語彙が多い韓国・朝鮮語などである。ちなみに、ベトナムでも韓国・朝鮮と同様に、多くの人が漢字で表記する姓名を持っている³。

なお、本稿で「日本語の漢字」という場合の「漢字」は、現代の漢字使用の標準である常用漢字表に示された字体を示す。また、「漢字の習得」とは、①漢字の形を記憶していること、②漢字の形を正しく書けること、③文脈の中で正しく読めること、④漢字の音読み訓読みを知っていることなどが挙げられるが、本稿で扱う「漢字習得」は、主として①と②を考察するものである。

2. ベトナムにおける日本語学習

ベトナム国内での日本語教育であるが、国際交流基金の2015年度の日本語教育機関調査によると、ベトナムにおける日本語学習者人口は約6万5千人で世界8位であり、この数は年々増加の一途をたどっている。日本とベトナムの関係は古くは1973年の日越外交関係樹立までさかのぼるが、2006年に両国首脳が共同声明に合意したことで、その関係はより一層緊密になった。政治のみならず、経済分野での両国の友好関係に後押しされ、日本語教育も学習者数を順調に伸ばしている。日本語学習者は日系企業への就職、あるいは日本語が話せるという優位性を利用して昇給や昇進を考えることが多いと聞く。ベトナム全土にその数を増やしているが、特に北部において日本語学習者の増加が著しい⁴。

学習者の多くは日系企業での就職を希望しているようだが、外国人を採用しようとする日本企業は、留学生にどの程度の日本語コミュニケーションレベルを求めているのであろうか。ここに2018年度の調査結果があるが、文系ではビジネス中上級レベルを求める企業が全体の約6割以上、理系では同レベルを求める企業が6割弱になっている⁵。ビジネスレベルの中級以上はかなり高いレベルを想定しているようだが、これに対し、外国人留学生も高いレベルが要求されていることを充分意識し7割以上は「高い日本語能力が必要である」と考えている。ところが、日本での就職を希望する理由として「外国人として日本語力を生かせるから」という回答は5割程度しかいない。企業は中級レベル以上の日本語力を求めており、外国人留学生もそれを理解している。しかし、実際には日本企業でその力を生かそうと考えている学生は半数程度しかいない。これはなぜなのだろうか。また「外国人ならではの強みと弱み」を尋ねたところ、強みは「2か国語以上の語学力（母国語と英語）や言語力」「異文化理解」「柔軟な考え方」などを挙げる一方、弱みの一番は日本語であった。

筆者(関)が2018年7月末まで所属していた教育機関は主にビジネスパーソンの日本語研修を実施していたところだが、ここでも日本企業に就職した多くのベトナム人留学生が自分の日本語力の不足を補うべく、業務終了後に日本語を学びに来ていた。日本の大学を卒業後、日本企業に就職した人、またベトナムで大学を卒業し、大学院のみ日本で修了した人、ベトナムで大学を卒業して、そのまま来日した人など、バックグラウンドは様々であるが、一様に日本語力の不足を嘆いていた。彼らが不足だと感じている点は、ベトナム人日本語学習者に共通した課題として挙げられる日本語の発音の難しさ、漢字語彙の不足に起因しているものが多い。

ベトナム語の発音は日本語と比べて非常に複雑で、特に母音にそれが顕著である。同じ「あ」と発音する音の中に6つの声調がある。よって日本語の50音を学習しても、日本語の「あ」がベトナム語のどの「a」にあたるかがわからないため、非常に曖昧な音になってしまう。漢字については、ベトナムには漢越語があり、その7割が漢字語彙と似ていると言われるが、学習にそれがうまく活かされておらず、音では聞いたことがあってもそれを文字にしたときにどのような漢字を使うのかがわからないという現象が起きている。筆者2名をはじめとする研究グループは2017年3月にベトナムでの漢字学習の実態を調査するべく、ホーチミン市とハノイ市の大学をはじめ、様々な日本語教育機関を訪問し、学生、指導教師双方にインタビュー調査を実施した。その際、漢越語を授業にどのように取り入れているのかを尋ねた。機関によって回答は様々で、漢越語を積極的に取り入れて漢字学習の理解に活かしているところもあれば、教師の多くは漢越語が苦手なので、積極的には取り入れないが、学生が自分自身で調べられるようにアプリを紹介し、授業内でも使用を許可しているところもあった。漢越語を授業に取り入れることには、音が同じでも意味が異なることがあるので、あまり頼らない方がよいとする考え方、音から推測できるのであれば漢字習得の助けになるという双方の考え方が背景にあり、賛否両論ある。

漢越語に関しては、音と意味の関係以外にも旧JLPT3級の出題範囲の漢字には、日越の漢字語彙の一致度は2割以下であるという研究結果もある⁶。しかし、それは日本語能力試験（以下JLPTとする。）をN5⁷から順番に受験するとしたらという仮定の話であり、学習者の環境によっては、N2やN1の漢字を先に学習しなければいけないということも考えられ、その場合は漢越語から学んだ方が効果的であると話すベトナム人学習者もいた。習得すべき漢字の数についても、常用漢字を到達目標としてはいるが、多くの教育機関で達成が難しいので、多くても800字程度までという回答を得た。学習方法も様々で、日本国内で作成されたテキストを使う、独自のテキストを作成して使用しているなど機関によって取り組み方は千差万別であった。日本語非母語話者教師が漢字を教える場合、自分自身が学び、習得した方法－たとえば、一つの漢字を何度も書く方法－などを踏襲することが多い傾向も見られた。共通していたのは、日常的に漢字を使う機会が少ない学生たちに漢字の読み書きをどのように動機付けるかが難しいということだった。ただ、前述のように日本企業への就職を希望する学生は、企業がより高い日本語レベルを求めていることを充分承知しているため、日本語能力試験N3は最低でも取得できるレベルになることを目標としている一方、実際の現場では、このN3レベルを取得させることに困難さを感じていることが窺われた。

ベトナム人学習者の学習スタイルについて、実際に教壇に立つ先生方へのインタビューからは、以下のような4点の指摘があった。第一にベトナム語母語話者の学習者は、ベトナム語が声調言語であることから、音を聞いて真似をすることが得意である反面、メモをとって覚えるという学習スタイルが希薄であるということだ。それは文字や表現を場面記憶で覚える傾向が強いことも関係している。第二に、ノートに書いてくる宿題をしては来ても、それは記憶されていることとイコールではないことだ。第三に、間違いたくない、間違いを指摘されたくないというプライドの高さが漢字を含めた日本語学習のある種の壁になっているのではないかとということだ

あった。第四に、学習者にとって、学習がプラスになる必要があることだ。それが、学習を継続させる大きな要因の一つになるということが挙げられた。

3. 先行研究

今回の調査では、インタビューに応じてくれた学生たちに「好きな漢字」「覚えやすい漢字」をそれぞれ上位5つ書いてもらい、それについてさらに質問を重ねるという方法をとった。これは加納ほか(1989)が日本語学習者の漢字記憶プロセス調査を実施した際に使用した自由放出法を参考にしている。

自由放出法では、外国人学習者に頭に浮かんでくる漢字を自由に書いてもらい⁸、結果から漢字がどのように記憶されているかを調査・分析する方法であるが、その意義として下記3点が挙げられている。(加納ほか1989)

①教育的意義

新しい学習を開始するときにそれに関わる知識を引き出すことで、新しい学習の準備をすることができる。

②創意工夫の反映

書いてもらう内容に正解がないため、そこには回答者の創意工夫が表れる。

③心理学的な研究

新しい学習に関わる以前の学習がどのように格納されているを知ることができる。

この調査方法から導き出された結果として、初級学習者では、放出の手掛かりとして意味の手掛かりに比べて形態の手掛かりの割合が多いが、学習する漢字数が増えるに従って、反対に意味の手掛かりの割合が大きくなる。これは伊東(1999)の調査でも明らかになった。本研究は上記の方法

を参考に回答者が漢字を出力した理由をより明確にするために前述のように外国人学習者に「好きな漢字」「覚えやすい漢字」をそれぞれ5つずつ挙げてもらい、その理由をインタビュー形式調査した。この方法は、すでにミャンマー、ラオス、タイで実施した調査と同様のインタビュー方法を用いている。ミャンマー、ラオスでの調査結果から栗原・関（2018）は以下のように述べた。

- ・日本語学習者による漢字、漢字語彙の出力理由は、大きく「意味」「形」「頻度」の三つである。なお、「好きな漢字」を出力する時の理由には「意味」が多く、「覚えやすい漢字」を出力する時の理由には「形」が多い。
- ・学習者の日本語力が低い場合、漢字、漢字語彙の出力理由が複数にわたることが多い。従来の調査方法からは、日本語学習者の日本語力と漢字、漢字語彙の出力理由の関連を明らかにすることは難しい。

また、上記の調査結果を踏まえて行われた、タイでの調査結果からは、栗原が「被験者が出力した漢字、漢字語彙の内訳を詳しく検討する必要がある」ことを提示している。特に初級レベルの日本語学習者の漢字学習の記憶過程については、「日本語力が低い学習者は本当に形重視で漢字を記憶している」と言えるかという疑問を持ち、さらに初級レベルの日本語学習者の漢字学習の記憶過程にはどのような傾向がみられるかについて以下のように示唆している。

- ・「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を区別してデータを分析すると、「好きな漢字」においては、被験者にとって「意味」が「形」と同様に重視されていることがわかる。
初級の日本語学習者にとっても、漢字を覚える際に個人の興味、関心は大切な要素であることを示している。
- ・被験者が挙げた漢字、漢字語彙のうち、実際に覚えている漢字の内訳

を見ると、初級で学ぶ漢字の一角に少数の「形を覚えやすい」漢字群があるという可能性が窺える。

それは複数の被験者が、ある特定の漢字を「覚えやすい漢字」として挙げていることからわかるのだが、それ以外の漢字については「形を覚える」方法で習得漢字が増えていくのかは定かではない。

- ・初級の学習者が「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を出力した場合、漢字、漢字語彙の出力理由が複数にわたる現象が見られる。これは同じ漢字であっても、その漢字を記憶する手がかりを何に求めるかは学習者によって必ずしも同じではないことを示すものである。このデータは、初級の学習者への漢字教育を考える上で参考になるものであり、記憶の手がかりを複数提示されるような学習を行うことが、学習効率の向上につながる可能性があることを示す。
- ・初級の学習者が記憶している漢字には、象形文字が大きな割合を占めている。このことは、初級の日本語学習者が、漢字学習の導入時期に絵によるイメージを参考に形から漢字を覚えるというプロセスを経験していることが影響していると考えられる。しかし、この学習方法により、象形文字の学習が終わった頃に漢字学習の方法が変わることが、学習者にとって漢字学習を継続する上での問題になっている可能性がある。

上記調査結果からも非漢字系学習者が漢字学習を進める上で、〈難しく覚えられない〉と感じ、漢字学習を継続するのを諦めてしまう時期があることが示唆された。本稿では、さらにこの分析を進め、日本語学習者の漢字を覚える際に個人の興味、関心がどの程度重要な要素を占めているのか、また、学習者が〈形を覚えやすい〉漢字群以外の漢字習得に〈形を覚える〉方法を用いているのかについてさらに検証を進めたい。さらに学習者が漢字を記憶する手がかりが複数あること示唆されているが、それが具体的にはどのようなものなのか、漢越語を持つ非漢字系の国の中でも特殊

な背景を持つベトナムでの調査から分析，考察する。以上の点を明らかにすることは，現在，急激に増えているベトナムでの日本語学習者ならびに労働者として来日するベトナム人の日本語学習，特に漢字習得に何かしら寄与できると考えている。

4. 調査概要

本研究は，2017年3月にベトナムの教育機関において，漢字習得に関するアンケートおよびインタビュー調査を行ったものを分析したものである。調査の概要は以下のとおりである。

【調査対象者】

ベトナムのホーチミン市およびハノイ市の3大学の日本語学部 に在籍する学生58名。

内訳は，ホーチミン市師範大学日本語学部3年生30名，Van Hien（文献）大学（ホーチミン市）日本語学部2年生18名，Phuong Dong（東方）大学（ハノイ市）日本語学部3・4年生10名

【調査時期】

2017年3月15日～17日

【調査方法】

被調査者を5～6名のグループに分け，個別記入形式の質問紙を配布・趣旨を説明し，質問紙に回答を記入してもらった後，それぞれの回答の理由についておよび漢字習得に関する質問を個別にインタビュー調査をしたものを書き取る。

【調査内容】

・質問紙の内容：「好きな漢字」「覚えやすい漢字」について、それぞれ上限5個を記入してもらう。(回答者は58名。合計で最大580になるところだが、82%を満たした回答〈478語〉が得られた。)

・インタビューの内容：質問紙の回答について、以下の1～2の質問を行う。3～8は、漢字学習の状況を確認するため、9は、日本語学習の目的を確認するために行った質問である。

質問1 その漢字が好きな理由は何ですか。

質問2 その漢字が覚えやすい理由は何ですか。

質問3 漢字の勉強のために、家ではどれぐらいの時間をかけて勉強していますか。

質問4 1週間で、何文字ぐらい覚えられますか。

質問5 漢字をどのような方法で覚えていますか。

質問6 漢字を覚えるための良い方法、覚えた漢字を忘れない工夫を教えてください。

質問7 漢字の勉強で、楽しいことは何ですか。

質問8 漢字の勉強で、難しいことは何ですか。

質問9 卒業したらどうしたいですか。

本稿では、主として質問1、2の回答を分析に用い、質問9については、7. を述べる際にごく簡単に短く言及した。

【倫理的配慮】

回答用紙には、個人名、学年および日本語能力試験の結果を記入する欄を設けたが、記入は任意とした。アンケートの集計結果を公開する場合は、全体の集計の数値のみを示すので、個人が特定されることはないことを事前に説明し、了承を得た人たちに参加してもらった。

5. 調査結果

調査結果の分析方法として、回答者が挙げた「好きな漢字」、「覚えやすい漢字」の出力理由を⑩の項目に分けた。これは以前のミャンマー、ラオス、タイでの調査同様の分類法である。以下に示す。理由が複数の項目にまたがっていた場合は、それぞれの漢字の数としてカウントした。

表 1. 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由の分類方法

出力理由別分類	分類方法詳細
①意味1（価値観）	学生が、その漢字が表す意味、概念が好きな漢字。特に、自分が大切にしている価値観を表す漢字。
②意味2（好きなもの、身近なもの、興味があるもの）	学生が好きな物を表す漢字。特に、身の回りの好きな物、身近な物、興味がある物を表す漢字。
③パーツ	漢字の一部分に、既に知っているパーツがある漢字。あるいは、パーツそのものの漢字。
④形	ストローク数が少なく、書きやすい漢字。象形文字のように、漢字の形をストーリーで理解できる漢字。
⑤熟語	その漢字を使って漢字熟語が作りやすい漢字。一つ覚えておくことで、効率的に漢字熟語のバリエーションが増える漢字。
⑥頻度	日本語学習の際によく出てくる、また使う漢字。
⑦属性	名前、生まれた曜日、干支、性格、年齢など、自分の属性を表すときに使う漢字。
⑧学習順	日本語学習における学習順位が早い漢字。あるいは、学生自身の漢字学習において、学習の順番が早かった漢字。
⑨読みやすさ	学生のこれまでの日本語学習においては、複数の読み方が出てこなかったため、読み方を覚えやすかった漢字。
⑩その他の興味	上記①～⑨以外

「好きな漢字」「覚えやすい漢字」として挙げられた漢字および漢字語彙の総数は、延べ478、異なりで183であった。「好きな漢字」は延べ251、「覚えやすい漢字」は延べ227挙げられた。

次の表2. は回答者がそれぞれの理由で挙げた漢字および漢字語彙の語数を多い順に並べたものである。各項目の最後の（ ）にはその項目で挙

がった延べ語数を示す。

以下では、漢字および漢字語彙を合わせて、「漢字」または「語」と表現し、単漢字と熟語（漢字語彙）の区別が必要な場合のみ、区別して述べることにする。

表2. 出力理由別「好きな漢字」「覚えやすい漢字」(延べ語数478)

出力理由	好きな漢字 (延べ251)	覚えやすい漢字 (延べ227)
①意味1 (価値観)	愛(7) 家族(5) 成功(3) 感, 幸, 学, 楽, 自, 心(2) 以下は1回のみ 努, 伝, 生, 初, 偉, 願, 時間 朝 先生, 沈黙, 親, 信, 大, 好, 遊 必勝, 母, 父, 工業化, 文化, 由 留学生, 勉強, 約束, 和, 笑, 寺 予, 険, 力, 長, 存, 努力, 独身笑顔, 金, 海, 恋, 健康, 頑張る 落, 定, 飛 (計70)	人, 美, 日本(2) 以下は1回のみ 好, 日本, 涼, 安, 十, 先生 時, 出, 大, 家, 田, 心, 男 国, 君, 右 (計22)
②意味2 (好きなもの)	母(10) 父(6) 日本(4) 旅行(3) 花(3) 月, 夏, 女, 学, 料理, 春, 海 金, 好, 食, 映画, 国, 犬(2) 以下は1回のみ 文化, 行, 帰, 家族, 秋, 水, 安 留学生, お祭り, 庭, 新鮮, 魚, 歌手, 卒業, 勉強, 理科, 人, 絵 本, 自由, 音楽, 太, 日記, 甘い 日, 色, 生徒, 遊, 友達, 肉 (計82)	父(3) 犬, 金, 肉, 料理(2) 以下は1回のみ 犬, 安, 牛, 味, 日本語, 桜 六, 映画, 語, 日本, 旅行, 木水, 母, 学生, 防弾 (計28)
③パーツ	すべて1回のみ 情, 好, 安, 恥, 犬 (計5)	日(3) 目(2) 以下は1回のみ 一, 二, 三, 春, 天, 好, 学 月, 走, 火, 本, 生, 愛, 安 林, 話, 持, 待, 聞 (計24)

④形	日(4) 日本, 人, 母(3) 父, 川, 花, 生, 好(2) 以下は1回のみ 心, 女, 明, 教, 年, 先生, 様 会社, 語, 問題, 火, 山, 自由 愛, 記, 水, 治, 外, 力, 問 (計42)	一(8)人(7)十・女(5) 月, 大, 木(4) 日, 山, 口, 田, 二(3) 入, 三, 川, 土, 子, 心, 右 日本語, 大学(2) 以下は1回のみ 犬, 自, 学生, 先生, 会社 開, 目, 火, 山, 体, 雨, 鳥 形, 外国, 手, 親, 不, 何, 世 欠, 見, 八, 天 (計94)
⑤熟語	生(3) 以下は1回のみ 雨, 星, 学, 電 (計7)	/
⑥頻度	日本・勉強・日本語・米・学生(2) 以下は1回のみ 雨, 望, 開催, 事, 女, 男, 文法 日, 女性, 漢字, 試験, 国, 心 子 (計25)	日本・日(4) 勉強・人(3) 学・友・達・学生(2) 以下は1回のみ 友達, 大学, 好, 山, 車, 女 多い, 社会, 大好き, 先生 生活, 男, 国, 田, 大, 日本語 名前, 明 (計40)
① ⑦属性	明(2) 以下は1回のみ 女, 草, 雪, 花, 王, 香, 大学 好, 金, 水, 教, 雲 (計14)	全て1回のみ 水仙, 月, 生, 人, 大, 低 (計6)
② ⑧学習順	全て1回のみ 一, 二, 三 (計3)	一(4)日本・人(2) 以下は1回のみ 初, 山, 火, 木 (計12)
③ ⑨読みやすさ	全て1回のみ 人・曜 (計2)	/
④ ⑩その他	1回のみ良心 (計1)	1回のみ 語 (計1)

出力理由別「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の延べ語数と異なり語数とその比率をそれぞれ示すと表3. のようになる。詳細については、以下順次説明と考察を行う。

表 3. 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由別語数と比率

出力理由	好きな漢字 (計243)				覚えやすい漢字 (計227)			
	延べ語数		異なり語数		延べ語数		異なり語数	
	(計243)		(計177)		(計227)		(計146)	
①意味1 (価値観)	70	28.8 %	52	29.4 %	22	9.7 %	18	12.3 %
②意味2 (好きなもの)	82	33.7 %	48	27.1 %	28	12.3 %	22	15.1 %
③パーツ	5	2.1 %	5	2.8 %	24	10.6 %	21	14.4 %
④形	43	17.7 %	29	16.4 %	94	41.4 %	45	30.8 %
⑤熟語	7	2.9 %	5	2.8 %	0	0 %	0	0 %
⑥頻度	23	9.5 %	19	10.7 %	40	17.6 %	26	17.8 %
⑦属性	14	5.8 %	13	7.3 %	6	2.7 %	6	4.1 %
⑧学習順	3	1.2 %	3	1.7 %	12	5.3 %	7	4.8 %
⑨読みやすさ	2	0.8 %	2	1.1 %	0	0 %	0	0 %
⑩その他	1	0.4 %	1	0.6 %	1	0.4 %	1	0.7 %

5-1. 「好きな漢字」の調査結果

「好きな漢字」の調査結果を図1. に示す。総数における項目別の割合を示している。②「意味 (好き)」が3分の1を占め、①「意味 (価値観)」と合わせるとほぼ半分を占めていることがわかる。逆に④「形」は2割弱、⑥「頻度」は1割に満たない。「好きな漢字」が「形」「頻度」ではなく「意味」から挙げられていることがわかる。

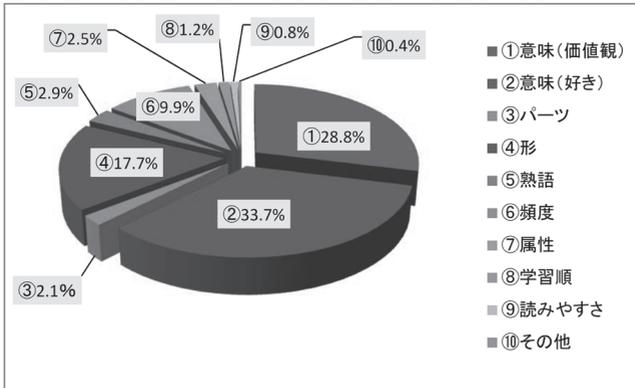


図 1. 「好きな漢字」の出力理由別割合

5-1-1. 複数回出力された「好きな漢字」

回答者が出力した「好きな漢字」の理由を考察する。表 4. は、複数回出力された「好きな漢字」を出力回数の多い順に並べたものである。この中で太字網掛けの漢字は複数の項目に挙げられた漢字を示している。

表 4. 複数回出力された「好きな漢字」

出力理由	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	計	出力理由	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	計
	母	1	64		3						14	留学生	1	2			
父	1	6		2				9	遊	1	1						2
日本		4		3		2		9	安		1	1					2
愛	7			1				8	映画		2						2
好	1	2	1	2			1	7	学生					2			2
家族	5	1						6	川				2				2
生	1			2	3			6	感	2							2
目		1		4		1		6	米					2			2
花		3		2			1	6	幸	2							2
女		2		1		1	1	5	自	2							2
学	2	2			1			5	自由		1		1				2
金	1	2					1	4	食		2						2
心	2			1		1		4	食		2						2

明				1			2	3	月		2						2
犬		2	1					3	夏		2						2
海	1	2						3	日本語					2			2
国		2				1		3	春		2						2
成功	3							3	文化	1	1						2
人		1		3				3	楽	2							2
勉強		1				2		3	料理		2						2
水		1		1			1	3	旅行		2						2

*出力理由⑧, ⑨については、複数回出力されなかったため、記載していない。

これらの漢字を挙げられた理由項目数の多い順に整理してみると、表5. のようになる。

表5. 複数の理由で出力された「好きな漢字」

5項目	好
4項目	女
3項目	学, 金, 心, 生, 父, 日, 日本, 花, 母, 水
2項目	明, 愛, 遊, 安, 犬, 生, 家族, 国, 自由人, 文化, 勉強, 留学生
1項目	映画, 学生, 川, 感, 米, 幸, 自, 食, 成功月, 夏, 日本語, 春, 楽, 料理, 旅行

「好」は5項目で挙げられている。①「意味1」, ②「意味2」, ③「パーツ」, ④「形」, ⑦「属性」である。アンケートに挙げられた理由は「自然に興味を持つ」「女と子でできている」「自分の名前だから」「簡単に覚えやすい」などであった。また4項目の理由が挙げられている「女」については、②「意味2」, ④「形」, ⑥頻度, ⑦「属性」から挙げられ、その理由として「男だから女が好きです」「自分の性別だから」「よく見るから」であった。

項目数は多くないが、挙げられ方に特徴がある漢字を見ると「母」「愛」「父」「家族」がある。「母」は3項目、①「意味1」, ②「意味2」, ④「形」に挙げられているが、②「意味2」に10人が挙げている。理由は「母が好き」

であった。「愛」は2項目、①「意味1」、④「形」であるが、ほとんどが①「意味1」である。理由は「愛は大切だ」「恋愛は大切だと思う」「何よりも人生の愛だから」「形がきれいだ」などが挙げられている。①「意味1」、②「意味2」、④「形」の3項目に挙げられたが、理由として「父が好き」という②「意味2」が多い。「家族」は①「意味1」、②「意味2」の2項目であるが、①「意味1」に5人が挙げている。理由は「家族が一番大切」「私にとって一番大切」「家族が好き」であった。以上のように、「好きな漢字」として①「意味1」②「意味2」の両方、またはその一方がその主な理由として挙げられた「母」「父」「家族」からは、学習者の家族に対する思いが強いことが窺われる。「愛」も含めて、人と人との関わりを大切にすることをベトナムの特徴がよく表れていると思う。

「日」「日本」「日本語」など、日本語学習者が目にする機会の多いと思われる漢字については、「日」「日本」が②「意味2」、④「形」、⑥「頻度」の3項目、「日本語」は⑥「頻度」の1項目であった。「母」「父」などと比べると、「好きな漢字」として挙げられた数は少ない。

5-1-2. 「好きな漢字」の理由 — 「意味」を中心とした分析—

ここでは、複数回出力された漢字の出力理由に着目して分析する。表3. 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由別語数と比率の表から、上位3位の理由について見てみると、

1位は①「意味（価値観）」延べ語数70（28.8%）

2位は②「意味（好きなもの）」延べ語数82（33.7%）

3位は④「形」延べ語数43（17.7%）

①「意味1」②「意味2」の合計延べ語数は152（62.5%）で「好きな漢字」が挙げられた理由の半分以上を占める。さらに、④「形」の3.5倍である。また、同じ「意味」であっても②「意味2」が①「意味1」より多いことも特徴的である。

①「意味1」②「意味2」のみで挙げられた漢字は「遊」「海」「映画」「家族」「感」「幸」「自」「食」「成功」「月」「夏」「春」「文化」「楽」「留学生」「料理」「旅行」の17であった。

これらの漢字が挙げられた理由をいくつか挙げてみたい。

- 「遊」 : ①「意味1」「楽しい」
「海」 : ②「意味2」「海が好き」
「家族」 : ①「意味1」「家族は私にとって一番大切」
「感」 : ①「意味1」「自分の気持ちを伝えるために、よく使う字」
「幸」 : ①「意味1」「意味が好き」
「自」 : ①「意味1」「自由の自」
「食」 : ②「意味2」「食べ物が好き」
「成功」 : ①「意味1」「将来のこと」
「月」 : ②「意味2」「美しい」
「夏」 : ②「意味2」「夏休みに私は家族と海へ行く」
「春」 : ②「意味2」「春が一番好きな季節」
「文化」 : ②「意味2」「子どもの時日本の文化が好きだった」
「楽」 : ①「意味1」「この漢字を見ると嬉しくなる」
「留学生」 : ①「意味1」「将来日本に行きたい」
「料理」 : ②「意味2」「暇なとき、いつも料理をする」
「旅行」 : ②「意味2」「将来日本へ旅行したい」

回答者がこれらの漢字を「好きな漢字」として挙げたのは、自分自身の身近にあるもの、自分が経験したこと、将来につながることなどと結びつけているからだと言える。

一方、複数回挙げられなかった漢字の中にも、この「意味1」「意味2」にしか挙げられていない漢字がある。例をいくつか挙げておきたい。「必勝」「工業化」「約束」「健康」「理科」「日記」「肉」などである。同様に理由を挙げておく。

- 「必勝」 : ①「意味1」:「自分の気持ちや決心が表せる」

- 「工業化」 : ①「意味1」:「意味が面白くて好き」
「約束」 : ①「意味1」:「約束を守ると、相手に信じられる」
「健康」 : ①「意味1」:「誰でも健康がほしいですから」
「理科」 : ②「意味2」:「食べ物が好き」
「日記」 : ②「意味2」:「日記を書くのが好き」
「肉」 : ②「意味2」:「肉を食べるのが好き」

これらの漢字は、挙げられた回数こそ1回ではあるが、複数回挙げられた漢字同様、学習者自身の身近にあるもの、経験したこと、将来につながるものがその理由として挙げられている。学習者にとっては意味のある漢字、語であることがわかる。

5-1-3. 「好きな漢字」の理由 — 「形」を中心とした分析—

次に「好きな漢字」を形から分析してみる。挙げられた「好きな漢字」異なり語数117のうち、④「形」を出力理由にしたものは、「日」(4回)、「日本」「人」「母」(3回)、「父」「川」「花」「生」「好」(2回)、「心」「女」「明」「教」「年」「先生」「様」「会社」「語」「火」「山」「自由」「愛」「記」「水」「治」「外」「力」「問」(すべて1回)である。インタビュー調査による具体的な理由として、「画が少ない」(「日」)「簡単に覚えられる」(「日本」)「人の姿と同じ」(「人」)「簡単」(「母」)「簡単に覚えられる」(「父」)「簡単」(「川」)「やさしい」(「花」)「簡単」(「生」)「わかりやすく勉強しやすい」(「好」)「書きやすく書道でよく使う」(「心」)「書きやすい」(「女」)「勉強しなくても、この漢字を見ると意味が大体わかる」(「明」)「わかりやすい」(「教」)「簡単、わかりやすい」(「年」)「書きやすい」(「先生」)「きれいな形」(「様」)「書きやすい」(「会社」)「やさしい」(「山」)「字の形がきれい」(「愛」)「簡単だ」(「水」)「覚えやすい」(「外」)「きれい」(「問」)などとなっている。ほとんどの理由が「簡単である」「書きやすい」「形から意味がわかる」「形がきれい」である。挙げられた漢字、漢字語彙がそれほど画数の多いもの

ではなく、また、あまり複雑な形をしていないことから、学習者が「簡単だ」と感じたのだと思われる。ただ、幼い頃から漢字を当たり前のように使っている日本語母語話者が考える「簡単」「やさしい」という漢字と、非漢字系学習者が考える「簡単」「やさしい」が同じなのかどうか、今後、漢字導入、漢字学習の点で漢字系学習者への対応とは異なる方法を考えていく必要もあるのではないかとと思われる。

形からその意味が推測しやすい漢字に象形文字があるが、上記の漢字の中にどれぐらい象形文字があるのかを調べてみると、象形文字にあたるものは、「日」「人」「父」「川」「生」「会」「火」「山」「自由」「水」「力」の11である。他の出力理由で挙げられた「好きな漢字」の中で象形文字を探してみると、さらに「大」「犬」「心」「月」「予」「文」「手」「王」「良」「幸」「雨」「長」「事」「飛」「笑」「魚」「楽」の18で、前述の漢字と合わせて28となる。これは異なり語数の約24%にあたる。

5-2. 「覚えやすい漢字」の調査結果

覚えやすい漢字としては、延べ総数227、異なりで146が挙げられた。理由別の漢字数は表6. に示す。

表6. 「覚えやすい漢字」の出力理由別語数と比率（表3. の一部再掲）

出力理由	覚えやすい漢字（計227）			
	延べ語数 （計227）		異なり語数 （計146）	
①意味1（価値観）	22	9.7 %	18	12.3 %
②意味2（好きなもの）	28	12.3 %	22	15.1 %
③パーツ	24	10.6 %	21	14.4 %
④形	94	41.4 %	45	30.8 %
⑤熟語	0	0 %	0	0 %
⑥頻度	40	17.6 %	26	17.8 %
⑦属性	6	2.7 %	6	4.1 %
⑧学習順	12	5.3 %	7	4.8 %
⑨読みやすさ	0	0 %	0	0 %
⑩その他	1	0.4 %	1	0.7 %

覚えやすい理由として最も多く挙げられたのは、④「形」で、41.4%にのぼる。10%を超えたのは、⑥「頻度」17.6%、②「意味1」（好きなもの）12.3%、③「パーツ」10.6%で、その次が、①「意味1（価値観）」の9.7%となる。これで全体の91.6%を占める。⑩「その他」は1語のみ、⑤「熟語」と⑨「読みやすさ」を覚えやすい理由として挙げられた漢字はなかった。(図2.)

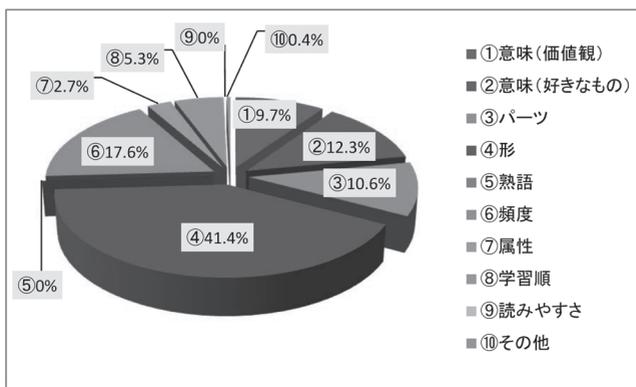


図2. 「覚えやすい漢字」の出力理由別割合

5-2-1. 複数回出力された「覚えやすい漢字」

「覚えやすい漢字」として3回以上挙げられたものの理由別分類とその画数を表7. に示す。出力された異なり語数のうちの14 (9.6%), 延べ語数のうちの92 (40.5%) である。

表7. 3回以上出力された「覚えやすい漢字」(異なり語数14, 延べ語数92)

出力理由	①	②	③	④	⑥	⑦	⑧	合計出力回数	漢字の画数
人	2			7	3	1	2	15	2
一			1	8			4	13	1
日			3	3	4			10	4
日本	3	1			4		2	10	
大	1	1		4	1	1		8	3
月			1	4		1		6	4
山				4	1		1	6	3
田	1			3	1			5	5
日本語		2		1	1			4	
安	1	1	1					3	5
好	1		1		1			3	6
先生	1			1	1			3	
学生		1		1	1			3	
火			1	1			1	3	4

理由を問わず合計して、最も多く挙げられた漢字は、「人」の15回で(「覚えやすい漢字」延べ出力語数の6.6%),次に多いのは「一」の13回で(5.7%)である。3番目は、「日」「日本」の各10回で(4.4%),と続く。それ以下は、出力回数が10回未満となる。また「日本語」が4回(1.8%)挙げられているので、「日」だけを取り出して合わせると合計24回(10.6%)となり、単漢字としては、学習者の1割が、「日」を挙げていることになる。

表7. の3回以上出力された漢字が挙げられた理由をみると、④「形」を理由としたものが11漢字、⑥「頻度」は10漢字、①「意味1」は7漢字、③「パーツ」は6漢字、②「意味2」⑧「学習順」は5漢字、⑦「属性」が3漢字となる。

またそれぞれの理由で、最も多く挙げられた数を比較すると、④「形」を理由とした「一」の8回、「人」の7回、「十」「女」の5回となる。それ以外の分類項目で最も多く挙げられているのは、4回が最高で、⑥「頻

度」の「日本」「日本語」, ⑧「学習順」の「一」である。

5-2-2. 「覚えやすい漢字」の理由 — 「形」を中心とした分析—

「覚えやすい漢字」で最も多くの回数出力された「人」については④「形」を理由としている。具体的な理由としては、「人の形と同じ」「人が立っている姿勢のよう」ということを挙げている。また、「簡単」「覚えやすい」も多く、文字の形が単純であり、人間の物理的な形状から想像して覚えやすいと感じていることが分かる。「画数が少ない」ことを挙げたのは1名のみだが、画数の少なさは、覚えやすさの根本にあることで、特に意識はされていないのかもしれない。回答者たちの日本語学習歴やJLPT取得がほとんどN3以下であることからすると、もっと画数の多い漢字は未習である可能性も高く、画数が少ないことと覚えやすさに直接の影響関係があるかは、定かではない。

「覚えやすい漢字」で2番目に多く挙げられた「一」も、出力理由が最も多いのは、④「形」である。具体的には、「簡単」「とても簡単」が圧倒的に多い。また、「画数が一つ」「画数が少ない」「見てすぐ覚えられる」「1本の直線だけ」「書きやすい」など、画数の少なさと覚える苦労が少ないことが挙げられている。「一」について、⑧「学習順」も4回理由に挙げられており、「一番簡単な漢字で、最初におぼえた」「はじめに勉強した」に加えて「日本語を学ぶ前にもこの漢字を知っていた」というのもあった。ここでも明らかに単純な形で覚えやすいことが理由となっていると言ってよいだろう。

他に④「形」を理由として「覚えやすい漢字」とされたのは、「人」「一」「日」「大」「月」「山」「田」「日本語」「先生」「学生」「火」があり、「先生」「学生」「日本語」を除き、比較的画数の少ない漢字である。一方、漢字で、④「形」を理由として挙げられなかったものは、「安」「好」の2漢字のみである。画数が5画以上で、他の漢字より多いことともあるだろうが、形

に着目すると、縦横の直線以外の要素で構成されていることが影響しているとはいえないだろうか。「一」「日」「大」「月」「山」「田」は、ほぼ縦と横の直線のみで構成され、直線以外の要素がある「人」「火」は、直線にゆるやかなカーブが、付けられたのみで、他の線と交わるという複雑さがないと言ってもよいかもしれない。

さらに、これらのうち、「人」「日」「大」「月」「山」「田」「生」「火」は象形文字であり、そのこと覚えやすさとの関連についてだが、「山」については、「富士山の形と同じ」「実際の山と似ている形をしている」「山のよな形」という理由を挙げている。また「田」についても「原っぱのよな形」「田のよな形」が挙げられ、ベトナムなど東南アジアだからこそその連想が出ていると思わせるものである。しかし、それ以外は、実際のものの形から漢字が連想されてはならず、象形文字であることと覚えやすさには、あまり影響を与えていないと言える。

5-2-3. 「覚えやすい漢字」の理由 — 「頻度」を中心とした分析—

⑥「頻度」を理由として挙げられた漢字は、4回の「日」「日本」が最も多く、次が「人」の3回である。あとは、⑥「頻度」を理由としても、1回しか挙げられていない。5-2-1. でも述べたが、「日本」「日本語」を合わせると、「日」は24回挙げられており、日本語学習の場で繰り返し出てくる漢字であることが大きく影響している。

回答者の挙げた具体的な理由をみると、「日本語を勉強すると、必ず覚えなければならないから」「日本はいつも書くから」「日本語を勉強しているから」「毎日使うから」「日本」の「日」だから「毎日、たくさんの”日”を書く」などが挙げられている。頻繁に目にしたり、書いたりすることで、結果的に覚えているのだと思われる。

それ以外に覚えやすい理由としては、①「意味1」は7漢字、③「パーツ」は6漢字、②「意味2」⑧「学習順」は5漢字、となるが、同じ漢字

が、同じ理由で覚えやすいとことではなく、それぞれの思いや経験で、覚えやすさがあることがうかがえる。

5-3. ベトナム人学習者の漢字に対する意識の特徴

「好きな漢字」「覚えやすい」漢字全体について分析し、そこからベトナム人学習者の漢字に対する意識の特徴を考察する。表8. は、「好きな漢字」「覚えやすい漢字」に関わらず、出力された回数が多いものから順に並べたものである。同じ漢字で「好きな漢字」と「覚えやすい漢字」で挙げられる回数に2倍以上の差のある漢字（どちらかが0も含む）を網掛けにして示してある。

表8. 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の両方に出力された漢字

	好きな漢字 語数	覚えやすい 漢字語数	合計語数	% (挙げられたすべての 語数のうちの割合)
人	5	15	20	4.2
日本	9	10	19	4.0
日	6	10	16	3.3
母	14	1	15	3.1
一	1	13	14	2.9
父	9	3	12	2.5
女	5	6	11	2.3
好	6	3	9	1.9
大	1	8	9	1.9
愛	8	1	9	1.9
学	5	3	8	1.7
月	2	6	8	1.7
心	4	3	7	1.5
生	6	1	7	1.5
花	6	1	7	1.5
勉強	4	3	7	1.5
山	1	6	7	1.5
犬	3	3	6	1.3
学生	2	4	6	1.3
金	4	2	6	1.3
日本語	2	4	6	1.3

家族	5	1	6	1.3
十	1	5	6	1.3
先生	2	3	5	1
国	3	2	5	1
田	0	5	5	1
二	1	4	5	1
木	0	5	5	1

ここから分かることは、「好きな漢字」と「覚えやすい漢字」は一致していないものが多いことである。

「好きな漢字」として多く挙げられているのが、「母」「父」「好」「愛」「生」「花」「金」「家族」、 「覚えやすい漢字」として多く挙げられているのが、「人」「一」「大」「月」「山」「十」「田」となる。他方、どちらにも同じくらの数が挙げられているのが、「日本」「女」「心」「勉強」「犬」などとなる。

次に、前述の表3. を再掲するが、「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の理由別出力語割合を一覧にしたものである。延べ語数、異なり語数のそれぞれで出力された理由の割合の多い上位3位までを見ると、

表3. 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由別語数と比率

出力理由	好きな漢字 (計243)				覚えやすい漢字 (計227)			
	延べ語数		異なり語数		延べ語数		異なり語数	
	(計243)		(計177)		(計227)		(計146)	
①意味1 (価値観)	70	28.8 %	52	29.4 %	22	9.7 %	18	12.3 %
②意味2 (好きなもの)	82	33.7 %	48	27.1 %	28	12.3 %	22	15.1 %
③パーツ	5	2.1 %	5	2.8 %	24	10.6 %	21	14.4 %
④形	43	17.7 %	29	16.4 %	94	41.4 %	45	30.8 %
⑤熟語	7	2.9 %	5	2.8 %	0	0 %	0	0 %
⑥頻度	23	9.5 %	19	10.7 %	40	17.6 %	26	17.8 %
⑦属性	14	5.8 %	13	7.3 %	6	2.7 %	6	4.1 %
⑧学習順	3	1.2 %	3	1.7 %	12	5.3 %	7	4.8 %
⑨読みやすさ	2	0.8 %	2	1.1 %	0	0 %	0	0 %
⑩その他	1	0.4 %	1	0.6 %	1	0.4 %	1	0.7 %

好きな漢字では、

延べ語数としては、1) ②「意味2」、2) ①「意味1」、3) ④「形」

異なり語数としては、1) ①「意味1」、2) ②「意味2」、3) ④「形」

覚えやすい漢字では、

延べ語数としては、1) ④「形」、2) ⑥「頻度」、3) ②「意味2」

異なり語数としては、1) ④「形」、2) ⑥「頻度」、3) ②「意味2」

となる。5-1. および5-2. での分析では、大まかに言えば、「好きな漢字」は「意味」、「覚えやすい漢字」は、「形、頻度」からという理由が多かったのと、一致した結果といえる。5-2. で分析対象とした漢字は、3回以上出力された漢字としたが、異なり語数としては14 (9.6%) に過ぎず、残りの90.4%は、1~2回しか出力されていないものであったが、出力回数の少ない漢字でも、同様のことが言えることが確認できた。

ここで注目しておきたいのは、「好きな漢字」の理由として3番目に多いのが、④「形」であり、また「覚えやすい漢字」の理由として3番目に多いのが、②「意味2」である点である。「好きな漢字」であっても「覚えやすい漢字」であっても〈意味として好きだ〉ということと〈形が覚えやすい〉ということが、漢字として記憶に残るための条件であることが見いだせる結果といえるのではないだろうか。それに加えて「日本」「日本語」という熟語に含まれる「日」を含め、「日」がもっとも多く出力されたことも合わせると、その漢字の意味が好きであること、親しみを持てること、加えて、接する頻度が多いということが、漢字を身に付けるために重要な要素といえるのではないだろうか。

日本の小学生が漢字を覚える方法として、何回も書くということが奨励されているが、ベトナムでは、2. で「ノートに書いてくる宿題をしては来ても、それは記憶されていることとイコールではない」という学習の特徴を紹介したが、書いて覚えるという学習スタイルが身につけていなければ、たとえ漢字を10回書いてくるような宿題をきちんとやってきたとしても、覚えない。であるなら、漢字は書いて覚えることより、その漢字に頻

繁に接する機会を作り、好きになり親しみを持つことで、記憶が高まるということを利用して、漢字の学習を展開させることに意義があるのではないだろうか。回答者が挙げた漢字は「好きな漢字」であっても「覚えやすい漢字」であっても、回答者の記憶の中から出てきたものには違いがない。書いて覚えるのとは異なる方法、すなわちその漢字を好きになり、親しみを持つことによって、漢字を学習することで、楽しく、発展的により多くの漢字を覚えられるようになることを期待するものである。

6. 考察：

本調査以前にも同様の調査、インタビューをミャンマー、ラオス、タイで実施してきたが、まだアジア全域をカバーしたわけではないので、比較分析するのは別の機会に譲ることにするが、今回のベトナムでの調査結果を踏まえてそれぞれの地域の共通している傾向について述べておきたい。

表9. は、それぞれの調査地域で複数回挙げた「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を一覧にしたものである。回答者の日本語レベルはJLPT N4からN2までで、また学んでいる教育機関も大学、一般の日本語センターなど様々であるため、単純に比較することは難しいが、傾向は確認できる。

「好きな漢字」はタイでの「水」(④「形」)を除けば、すべて項目①「意味1」②「意味2」から挙げられている。また、2つ以上の地域で出力された漢字として「愛」「家族」「家」「金」がある。ミャンマー、ラオス、タイ、ベトナムともに家族を非常に大事にするお国柄がここに表われている。「覚えやすい漢字」については項目⑥「頻度」④「形」から挙げられており、項目①「意味1」②「意味2」から複数回挙げられた漢字はない。⑥「頻度」としては、「日本」「日」「私」などがあるが、これは日本語を学習していること、調査対象が多くは大学生であったことも影響していると思われる。

表9. ミャンマー, ラオス, タイ, ベトナムの「好きな漢字」
「覚えやすい漢字」のうち, 複数回出力されたものの比較

	好きな漢字	覚えやすい漢字
ミャンマー	愛情 } 幸せ } 意味 楽しい } 家族 }	学校 } 一 } 頻度 国 } 人 } 大学 }
ラオス	愛 } 雨 } 意味 金 } 家 }	人 } 川 } 形 水 } 山 } 本 } 私 } 頻度
タイ	金 } 冬 } 意味 水 } 形	一 } 口 } 形 二 } 人 } 山 }
ベトナム	愛 } 母 } 意味 父 } 家族 } 日本 } 成功 }	一 } 大 } 形 月 } 山 } 日 } 日本 } 頻度

タイでの調査結果から, 初級日本語学習者が漢字を記憶する際に「形」や「頻度」を手がかりにしていることは明らかになったが, ベトナムでも同様に、「覚えやすい漢字」として確かに「形」や「頻度」が挙げられている。しかし, 「好きな漢字」になると, 漢字のもっている意味や, 価値観が優先し, 「形」「頻度」より個人の興味, 関心が重要な要素を占めていることが明らかになった。挙げられた漢字は, 明らかに「覚えやすい漢字」に挙げられた漢字群より画数が多く, 難しく見え, さらに頻度が多いとは思われない漢字が多い。「愛」「愛情」「家族」などである。回答者がその場ですぐに書けたことを考えると, 「好きな漢字」であれば, 形が覚えにくいもの, 頻度の少ないものであっても, 学習者にとっては学習したい漢字になるのではないかと思われる。

同じ漢字を出力しても、その理由は回答者によって異なり、その漢字を想起することは、回答者の個人的な事情や気持ちがかなり反映されている。また「意味」から想起するだけではなく、前述のように「形」や「頻度」であったりするが、その漢字に自分自身の価値観を重ねて覚える、熟語を作ることで覚える、また書きやすいという形を理由に覚えるなど、学習者によってその漢字を想起する理由が異なることを教える方も意識しておくことが不可欠となろう。

言い換えれば、学習者が、1) その漢字の意味が好き、また意味の価値観に共鳴できること、2) 形が覚えやすいこと、3) 見たり、書いたりする頻度が高いことが漢字を記憶する手がかりになるのであれば、それを充分に活かした学習方法を考えていくことが、漢字系以外の学習者の漢字習得には必要なことだと考える。しかし、与えられた漢字テキストを使って実施されることが一般的である現在の授業形態での漢字教育では、学生自身が興味を持つ漢字を中心に学ぶことは難しい。理想的な形としては、各学習者が興味・関心のある漢字を中心に発展的に学べることである。そのためには、関心のあるテーマから漢字や漢字語彙を増やすことができる教材が必要となる。現在、本研究グループでは、様々なテーマ（「天気・季節」「大学の生活」「病気・薬」「旅行」「恋愛・結婚」など）から選んで漢字を学べるようなワークブックを教材として開発中である。今後も5-3.で述べたように、漢字習得の方法が日本語母語話者である日本人とは異なるという前提にたち、学習者が漢字を記憶する手がかりを学習者自身の興味・関心から見つけていけるような手助けをすることが、漢字学習をより楽しく進めるための一つの方法になるというのがベトナムでの調査から結論づけられるものである。

7. おわりに

ベトナム語の母語話者に注目したのは、漢字系・非漢字系の間隔的な位

置に存在するという理由に加えて、ベトナム人の日本語学習者の増加を念頭に置いている。厚生労働省の発表⁹によると2017年の日本国内における外国人労働者数は127万人を越えた。人手不足に悩む企業が外国人を積極的に働き手として受け入れた結果であるが、前年と比較すると約20万人増えていることになる。国籍別では中国が最多で外国人労働者全体の約30%を占めているが、次いでベトナムで24万人余り、フィリピン15万人弱と続く。ベトナム急増の理由は様々あるようだが、最大の理由はベトナムの国策にある。外貨獲得のために労働者として積極的に海外に送り出しており、今後さらにベトナムでの日本語学習者や来日する労働者が増加することは容易に推測され、ベトナム語母語話者の日本語学習の特徴や問題点の把握は今後の研究が急務である。中でも今回調査した漢字学習については、インタビューした学習者の多くが「日本へ行きたい」「日本で仕事をしたい」という希望を持っていることが確認されており、より効果的な学習方法の開発が期待される分野である。

現在使用されているベトナム語の約60%はもともとの中国語からの由来と言われている。ここで言う漢越語、または漢越音とは漢字のベトナム語読みを指す。ベトナム語母語話者が日本語の漢字を習得するときの使用頻度の高い学習ストラテジーとして、漢越語が挙げられており、漢越語を使い漢字を習得することはかなり有効だと思われる¹⁰。また漢越語は漢字の読み方に限らず、意味を覚えるのにも使われている。しかし、先行研究の部分で述べたように、ベトナム国内で漢越語を使用して日本の漢字を学習させている教育機関は多くなかった。ベトナム語版の多くの漢字辞書には漢越音が記載されていることもあり、学習者にとっては有効な方法の一つではあるようだ。ただし、漢越音を漢字学習の手がかりとすることを是としない機関もあるため、使うか、使わないかはそれぞれの教育機関によるところが大きい。

漢越語は中国南方から入った漢字音が多く、そのことから日本の漢語の呉音との類似が指摘されている。現代日本語の漢字音に多いのは呉音と

漢音であるため、呉音の漢字語彙に限っていえば、漢越音を持っているベトナム話者にとって、漢字習得の手がかりとして音からの推測が有利に働くのではないと思われる。しかし、あくまでも音を頼りに習得するという点で有利であるだけで、文字の形を記憶することには直接結びつかない。

実際「CHU Ý」と書いてある看板をハノイの街中でよく見かけたが、これは音をそのまま読むと「ちゅうい」となり意味は「注意」である。「注意」という漢字を知っていれば、関越語の音を聞いたときに、文字と音は結びつくであろうが、それを知らなければ、音が理解でき、それが日本語の「ちゅうい」であることがわかって、表記として「注意」がわかることにはならない。ここが難しい点である。音と文字を並べて学習することができれば漢越語を使って日本語の漢字を学ぶことは効果的になるのではないかと考える。

しかし、音と文字を結び付けていくためにはどのような工夫が必要なのか、また学習者が漢字学習を継続して行けるモチベーション維持に必要なことは何かなど、考えていくべき課題は多い。今後、以上の課題を踏まえて、より有効な漢字学習法やその教材について考察を深めていく必要があると考えている。

本稿では、インタビュー調査のうち、3～8の項目についてはまだ十分に分析をするに至っていない。今後、漢字学習のストラテジーの相違や日本語習得の動機などとの関連についても分析、考察をしていかねばならないと考えている。

謝辞

今回のアンケート調査にご協力くださった、ホーチミン市師範大学の30名、Van Hien大学の18名、Phuong Dong大学の10名の学生および、インタビューに応じてくださった先生方に深く感謝申し上げます。

注

- ¹ 代表的な研究に、岡崎正道（1993）。
- ² 文部科学省科学研究補助金・挑戦的萌芽研究（課題番号：15K12897. 研究代表者：小川早百合）の成果の一部。栗原・関（2017）、栗原・関（2018）、栗原（2019）など。
- ³ ベトナムの少数民族には、非漢字文化民族が多い。
- ⁴ 「2015年度日本語教育機関調査結果」国際交流基金 pp.5-7.
- ⁵ 「2017年度外国人留学生の就職活動に関する調査結果」<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html>（2019年2月28日アクセス）
- ⁶ 日本語能力試験（JLPT）は日本国内および海外において、日本語を母語としない人を対象として日本語の能力を測定し、認定することを目的として行う。
- ⁷ <https://www.jlpt.jp/> 日本語能力試験は、難易度の低い方からN5, N4, N3, N2, N1とあり、最もレベルが高いのがN1である。
- ⁸ 加納ほか（1989）pp.65-66.
- ⁹ <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000192073.html>（2019年2月28日アクセス）
- ¹⁰ 松田ほか（2008）p.22.

本論文の執筆は、1. 4. 5-2. 5-3. は小川、2. 3. 5. 5-1. 6. 7. は関が分担した。

参考文献

- 伊藤寛子，和田裕一（1999）「外国人の漢字の記憶検索における手がかり
—自由放出法を用いた検討—」『教育心理学研究』47, pp.346-353.
- 円満字二郎（2014）『漢字なりたち図鑑—形から起源・由来を読み解く』

誠文堂新光社

岡崎正道 (1993) 「日本語教育における漢字指導の在り方」 岩手大学人文社会学部紀要『Artes liberales』No.52, pp.11-28.

加納千恵子「日本語教育における漢字学習の支援方法」『世界の漢字教育－日本語漢字を学ぶ－』(2017) 第8回, pp.5-16.

加納千恵子, 清水百合, 竹中弘子, 阿久津智, 石井恵理子, 海保博之, 出口毅 (1989) 「自由放法法による外国人の漢字知識の分析」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』4, pp.65-91.

栗原由加 (2019) 「日本語学習者の漢字習得プロセスについて考える－タイの非漢字系学習者へのアンケート調査を通じて－」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第4号, pp.17-24.

栗原由加, 関かおる (2017) 「非漢字圏における漢字教育に関する実態調査および提言－ヤンゴン外国語大学におけるインタビュー調査を通じて－」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第2号, pp.17-36.

栗原由加, 関かおる (2018) 「漢字学習の意欲に影響する要因－ラオス国立大学及びヤンゴン外国語大学の調査結果の比較検討を通じて－」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第3号, pp.17-32.

栗飯原志宣, 松浪千春 (2017) 「ベトナムにおける日本語教育の現状と課題－高等教育の現場が抱える社会と文化の問題を事例として－」『早稲田日本語教育学』第24号, pp. 71-80.

株式会社ディスコキャリアタスリサーチ (2017) 「外国人留学生の就職活動状況」 <https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/08/fs201808.pdf> (2019年3月現在)

松田真希子, タン・ティ・キム・テュエン, 金村久美, ゴ・ミン・トゥイ, 中平勝子, 三上喜貴 (2008) 「ベトナム語母語話者にとって漢越語知識は日本語学習にどの程度有利に働くか－日越漢字語の一致度に基づく分

小川早百合・関 かおる

析一」『世界の日本語教育』18, pp.21-33.

<付記>

本稿は、文部科学省科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究（課題番号：15K12897.研究代表者：小川早百合）の成果の一部である。